

八幡平いにしえの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



いもり 井森の大イチョウ

所在地：松尾寄木第24地割地内
指定年月日：昭和50年10月11日(市)

この大イチョウは、旧松尾村が有形文化財として指定した巨木の一つです。目通りの太さ(周囲)は7.6㍍、樹高およそ20㍍、樹齢は推定320年(指定時)といえます。地上2㍍ほどのあたりからほぼ水平に張り出した無数の枝が絡み合い、一本の木でも森を思わせるほどの迫力で、鬱蒼とした影を落とす夏場の樹下は、炎天下でも涼しいくらいです。イチョウは雌雄異株ですが、この木はメスで秋にはたわわに実を付けます。筆者も子どもの頃はこの実を拾って囲炉裏で焼いて食べるのが楽しみの一つでした。

誰が、何時、何の目的で植えたのか、証拠となる文献などはありませんが、南面の幹周りに垂れ下がる気根が垂れ乳を思わせることから、昔から乳神様として信仰の対象になってきました。これに触ると乳が出ない人は出るようになり、乳が張って苦しい人は楽になるといわれ、特に既婚女性が訪れることが多かったといえます。また、その昔、ここには稲荷神社が祭られ、井森の白狐、稲荷神様といわれる白狐がいて、近くの駒形神社や大神宮などを往来して神に仕えていたといわれます。

(文・八幡平市文化財保護審議会委員 畑謙吉)

《参考文献》・松尾の文化財(1980・1983村教委)・岩手郡の伝説(1979・太田忠雄)

編集後記

秋はイベントが満載です。先日も、週末に市内11カ所でイベントが行われました。さすがに一人で全部取材するのは無理で、安代の2カ所は(齋藤)に頼みました。ところが、連休初日は悪天候で、2カ所は翌日また足を運ぶ羽目に。結局プラスマイナスゼロで、これも前日、山田洋次監督の取材もそこそこに、おおぶけまちで行われた天気祭り(飲み会)に参加した影響か?。▼朗報!(北口)が11月から現場復帰です。(津志田)

田頭小学校の稲刈りにおじゃましました。遠藤さんと清水畑さんの指導のもと、上手に鎌で稲を刈り、はせ掛けをする子どもたちに感心しました。作業中の子どもたちに「早くなくても丁寧にする方が後の作業が早く終わるよ」と清水畑さんが声を掛け、「稲穂1本でも落ちていたらそれも拾う無駄にしない。丁寧に作業したから落ちていないね」と遠藤さん。どの仕事にも通じる大切な事を、私も一緒に学びました。(齋藤)

※広報はちまんたい11月4日号(No.138)の印刷経費は1部51,0825円(税込み)です。このうち、リフォームトラブルを特集した4ページ分(7,6125円、税込み)は、盛岡市消費生活センターが負担しました。広報はちまんたいへの広告掲載については、市役所総務課広報統計係(☎・内線1218)まで。

